

雨季に備えて

町内危険箇所を点検

町内の土砂災害等危険箇所5月31日行われました。当日は、消防団や公民館長、公民会長など地域内の土砂災害や浸水の危険箇所などを点検するとともに、災害時要援護者を訪問し、安否確認や災害時の避難方法等について声かけを行いました。



人家裏の点検を行う様子（永野区南川公民会にて）

この点検で、町内にがけ崩れ危険箇所が434箇所、浸水危険箇所が67箇所あることがわかりました。危険箇所の情報を関係機関が共有することで、危険箇所の把握と非常時に迅速な対応が可能となります。

避難訓練も実施



消防団員に誘導され避難所へ向かう様子

また、午後からは、泊野高峰公民会で土砂災害を想定した避難訓練が行われました。当日は高齢者から子どもまで63人の方が参加し、消防、警察などによる避難誘導や土砂災害ハザードマップの説明など防災研修会も行われました。

訓練に参加された、三腰佑昭さん（町民生委員児童委員協議会会長）は、「民生委員としても災害時は一人も見逃さない運動を実施している。今回は、近所ですべてを確認しながら、警察・消防の方の誘導もあり安心して避難訓練ができた」と話されました。

関西かごしま

ファンデー

関西鹿児島県人会総連合会（会長、稲盛和夫）の主催による「第5回関西かごしまファンデー」が5月24日、大阪市の「京セラドーム大阪」で開催され、ふるさとの味を求める約3万2千人の来場者で賑わいました。本町からは、観光協会が出店し、近畿さつま会員の協力のもと、あくまきや農産物、加工品などを販売し、中には午前中で売り切れる品もありました。



たくさんの人出で賑わう会場

（写真）記事提供
近畿さつま会会長 市野英司

また、ステージショーでは、三遊亭歌之介の落語ショーや中村美津子、島津悦子の歌謡ショーが行われ、出店者と来場者が一緒に踊るなど盛り上げてくれました。



二渡ホタル舟

ど根性ホタルに 逢いたくて！

本町の風物詩となつているホタル舟が、今年も町内の2箇所で開催されました。神子地区で「奥薩摩のホタル舟運航」が5月22日から6月2日まで運航し、二渡地区で「二渡ホタル舟」が5月16日から6月6日まで運航しました。

今年は、幼虫のエサとなる力ワニナも多かったことから、ホタルの数は昨年より多く見られ、県内はもとより、関東や関西など遠方から訪れた方々もおられるホタルの灯りとあわせて、スタップのまごころあふれる対応にも笑顔になる姿が見られました。

災害前のホタルの姿にはまだ及びませんが、年々増えていくホタルの生命力に期待したいものです。

銘茶みやかおり 新茶を贈呈

今回で10回目

奥薩摩特有の霧の中で育つたさつま町産茶のPRと地産地消のため、さつま町茶生産協会（別府秀吉会長ほか24人）の理事5人が6月2日、役場本庁を訪れ、日高町長に新茶の贈呈を行いました。

贈呈されたお茶は、生産協会各会員が一番茶本茶を提供し、仕上げたもので、町への贈呈は今年で10回目となります。

贈呈されたお茶は役場内の各課に配布され、来客者用として本町産茶のPRに活用します。



日高町長に新茶を贈呈する別府会長

九州一南高梅の産地 さつま町 産直交流会・出荷式・特産品まつり



梅の収穫体験の様子

5月30日、第6回地域まるごと産直交流会が行われ、生協コープ鹿児島組合員150人が町内梅園で青梅の収穫体験を行い、昼食には、町内産の豚と野菜を使った豚汁と狩宿米を使ったおにぎり、南高梅の梅干、新茶が振舞われました。

交流会では、梅、米、豚、茶の生産者との活発な意見交換がなされ生産者と消費者の交流が図られました。

また、6月1日には南高梅の出発式が農協佐志選果場で行われました。式では、神田和昭会長のあいさつの後、関係者によるティーパカットや南高梅使用の黒酢ドリンクで乾杯を行いました。今回は、昨年、商品化された梅入りかるかんが出席者に配られ出荷を祝いました。

今年産の梅は、開花期の

天候不順による影響で、昨

年より収量が少なくなる見

込みではあるものの、実太

りは上々で、青梅は6月中

旬まで県内のAコープや生

協、山形屋などの量販店や

酒造メーカー、市場に出荷

され、完熟梅は7月中旬ま

で薩摩農産物加工センター

で集荷されます。

さらに、鹿児島市にある

JAGグループ直売所のおい

どん市場では、6月6日か

ら7日の2日間、「さつま

町特産品まつり」が開催さ

れ、日高町長もトップセー

ルスとして参加し、青梅を

主体とする特産品の販売促

進とさつま町のPRを行い

ました。



おいどん市場での販売の様子



薩摩農村改善センターでの研修の様子

在宅福祉アドバイザー 民生委員等合同研修会

さつま町在宅福祉アドバイザー・民生委員等合同研修会が5月22日、薩摩農村環境改善センターで開催されました。この研修会は、ひとり暮らしの高齢者や高齢者夫婦のみの世帯が増えていることから地域の見守り活動などにより地域で支えあうネットワークの構築を図ろうと、毎年実施しています。

会では、在宅福祉アドバイザー275人に、「アドバイザー証交付」があり、高齢者の方々が、住み慣れた家庭や地域で安心して生活ができるよう、地域ぐるみで助け合いの輪（ネットワーク）を構築し、地域で援助を必要とされる方への見守り活動に取り組んでいただくようお願いしました。

商店街に花プランターを寄贈

薩摩中央高校
吉祥園保育所
聖母幼稚園

薩摩中央高校の3年生と吉祥園保育所、聖母幼稚園の園児が5月25日、宮之城屋敷と虎居の商店街に花のプランターを寄贈しました。

贈呈式の後に、薩摩中央高校の生徒と先生がトラックに積まれたプランターを一つ一つ並べて行きました。この花プランターは、平成18年の豪雨災害で被災された皆様に、「身近に花があることにより、心にゆとりと安らぎを与えることができれば」と生徒と園児が一緒に育てた花です。



花プランターを受け取る、吉井虎居区公民館長



鮎の塩焼きは、セルフサービスで！

塩焼きが一番！ 第3回川内川鮎まつり

川内川漁業協同組合（代表理事組合長田渕政春）主催による「第3回川内川鮎まつり」が6月7日、宮之城温泉河川広場で開催されました。これは、鮎漁の解禁に合わせ、川内川の魚と身近にふれあうイベントとして開催され、町内外から多くの来場者が訪れました。なかでも、1匹50円で販売された鮎の塩焼きコーナーでは、用意された2500匹が完売し、ちくりん大鍋の無料配付コーナーとあわせて、長蛇の列ができました。また、「川の生き物水族館」には、大型水槽にコイやフナなどが展示され、多くの来場者が見入っていました。このほか、山太郎カニの放流体験、うなぎのつかみどりなどが行われ、大いに盛り上がりました。